



安全データシート

作成年月日：2025年9月9日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称（製品名）： 害獣対策クローズアイビースト 240ml (VS-403)
製品コード： 03070003
会社名： 株式会社ヴィプロス
住所： 東京都葛飾区堀切1-37-11
担当部門： 品質管理部
担当者（作成者）： 勘造琢二
電話番号/FAX番号 03-5664-6801/03-5664-6802
メールアドレス： info@vipros.jp
主な用途： 催涙スプレー

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

可燃性/引火性エアゾール： 区分 1

健康に対する有害性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性： 区分 2

眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性：
区分 2 A

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）： 区分 2

ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 極めて可燃性の高いエアゾール
高压容器：熱すると破裂のおそれ
皮膚刺激
強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ（麻酔作用）
水生生物に毒性

注意書き：

<安全対策>

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
防爆型の【電気機器、換気装置、照明器具】を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気のよい場所でだけ使用すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
取り扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出をさけること。

応急措置：

皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
火災の場合：消火するために粉末消火器、泡消火器、炭酸ガスを使用すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師の診察/手当を受けること。
皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診察/手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当を受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
無理に吐かせないこと。
漏出物を回収すること。

保管：

日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。
水回りや湿度の高いところに保管すると、容器が腐食して破裂の恐れがあるので保
管場所に注意すること。
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。

廃棄：

使い切ってから廃棄すること。
内容物/容器を各都道府県/市町村の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に委託
して廃棄すること。

3. 組成、成分情報

内容成分	CAS No	含有量	PRTR
ジメチルエーテル	115-10-6	15-25	
界面活性成分	11066-21-0	35-45	第1種 694
精製水	—	35-45	

4. 応急措置

吸入した場合： 新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合：

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。

溶剤、シンナーなどは使用しないこと。

外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受けること。

眼に入った場合： 水で数分間、注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合： 直ちに医師の診断、手当てを受けること。

無理には貸せないこと。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：

医師の診察/手当を受けること。

5. 火災時の措置

消火剤： 炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂。

使ってはならない消火剤：

棒状注水、高圧水。

特有の危険有害性：

容器は高温で破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を充分に取ること。

火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。

内容液は極めて燃え易いので熱、火花、火災で容易に発火する恐れがある。

可燃性のものを周囲から素早く取り除く。

作業は風上から行い、有毒ガス(CO、NO_x 等)の吸入を避ける。

消火者は必ず適切な保護具（耐熱性着衣、保護眼鏡等）を着用し、有毒ガスが発生する為、空気呼吸器等を装備する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

作業の際には適切な保護具（保護手袋、防護マスク、エプロン、ゴーグル）を着用する。

噴出時は風上より処置を行うようにし、漏出部を上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。

漏出物は密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。

乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸着させて回収する。

付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。

着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をすること。

環境への放出をさけること。

漏出物を回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
- 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
- 防爆型の電気機器、換気装置、照明器具を使用すること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する措置を講ずること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- 屋外又は換気のよい場所でだけ使用すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 取り扱い後は手をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
- 作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。

保管：

技術的対策：

- 40℃以上になる所には置かないこと。
- 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。
- 火気や熱源から遠ざけて保管すること。
- エアゾール製品は高圧ガスを使用しているため、高温になると破裂の危険がある。
- 直射日光のあたる所、自動車内、ストーブ、ファンヒーター等の近くに保管しない。
- 水回りや湿度の高いところに保管すると、容器が腐食して破裂の恐れがあるので保管場所に注意すること。
- 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- 施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

内容成分	管理濃度 ppm	許容濃度	IARC
		ACGIH(TLV)	
ジメチルエーテル	—	—	—
界面活性剤	—	—	—
精製水	—	—	—

設備対策：

- 取り扱い設備は防爆型を使用すること。
- 静電気放電に対する措置を講ずること。
- 換気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
- 取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とすること。
- 屋内塗装作業の場合は局所排気装置等により蒸気が滞留しないようにし、作業者が暴露から避けられるようにすること。
- タンク内部などの密閉場所で作業をする場合には、密閉場所、特に底部まで十分に換気が出来する装置を取り付けること。

保護具

眼の保護具： 保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具：

有機溶剤または化学薬品が浸透しない手袋を着用すること。

適切な保護衣（不浸透性の労働衛生保護衣）、保護面を着用すること。

呼吸器の保護具： 有機ガス用防毒、空気呼吸器、密閉された場所では送気マスクを着用する。

衛生対策： 作業中は飲食、喫煙をしない。 取扱い後は手をよく洗う。

9. 物理的及び化学的性質

	原液	噴射剤（ジメチルエーテル）
外観（物理的状態、形状、色）	（容器内・解放時）液体 無色～淡黄色	大気圧下 ガス状、圧力容器内 液状、無色透明
臭い	僅かにあり、特異臭	やや甘味臭
pH	情報なし	非該当
融点・凝固点	情報なし	-141.5℃
沸点	データなし	-24.82℃
引火点	示さず （クリーブランド開放式）	-41.4℃
発火点	データなし	350℃
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データなし	下限 3.4vol%・ 上限 27vol%
蒸気圧	情報なし	1930mmHg (257KPa 0℃) 3800mmHg (507KPa 20.8℃)
蒸気密度	情報なし	1.59（空気＝1）
密度（比重）	情報なし	0.661(20℃ 液体)
溶解度	情報なし	7.0 g /水 100g (18℃) 水に 35wt% (24℃ 5気圧)
オクタノール/水分配係数	情報なし	0.2
分解温度	情報なし	情報なし
その他のデータ	情報なし	蒸発熱 111.64cal/g (467.331J/g) 燃焼熱 7.545cal/g (32.584J/g)

10. 安定性及び反応性

安定性： 常用温度で缶内圧は約 0.42MPa で安定。

避けるべき条件： 高圧ガスが入っており、40℃以上になると破裂の恐れがある。

水回りや湿度の高いところに保管すると容器が腐食して破裂の恐れがある。

周囲に着火源がないことを確認して、換気を十分に行うこと。

危険物有害反応可能性：

燃焼により CO,CO₂,NO_x 等の有毒ガスを発生する恐れがある。

その他の有害情報： 蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。

樹脂成分は空気中で酸化し、発熱、蓄積される条件があると自然発火する恐れがある。

11. 有害性情報

各成分の健康有害性情報（塗料原液＝原液 LPG＝ジメチルエーテル）

	急性毒性			
	経口	経皮	吸入（蒸気）	吸入（粉塵）
原液	分類できない	区分4	区分に該当しない	分類できない
LPG	分類できない	分類できない	区分に該当しない	区分に該当しない

	皮膚腐食性/刺激性	眼刺激性/刺激性	皮膚・呼吸器感受性	生殖細胞変異原性
原液	区分1	区分1	区分に該当しない	区分に該当しない
LPG	分類できない	分類できない	分類できない	区分に該当しない

	発がん性・生殖毒性	特定標的臓器（単回）	特定標的臓器（反復）	誤えん有害性
原液	区分に該当しない	分類できない	分類できない	分類できない
LPG	分類できない	区分3（麻酔作用）	分類できない	分類できない

12. 環境影響情報

内容成分	水生環境有害性	
	短期（急性）	長期（慢性）
塗料原液	区分2	区分に該当しない
ジメチルエーテル	分類できない	分類できない

漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与える恐れがあるので取り扱いに注意すること。

特に、製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

生態毒性： 情報なし。

残留性： ジメチルエーテル：BOD 4時間：0%、TOC 4時間：8%、
GC 4時間：7%（化学物質管理センターホームページ 既存化学物質安全性
点検データ）蓄積性がない又は低い。

残留性/分解性： 情報なし。

生体蓄積性： 情報なし。

土壌中の移動性： 情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 使い切ってから廃棄すること。
中身が残っている場合は、“ガス抜きキャップの使用方法”に従ってガスを完全に
抜いてから捨てること。

残余廃棄物： 内容物/容器を各都道府県/市町村の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に委託
して廃棄すること。

容器、機械装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

汚染容器及び包装：

中身を使い切ってから分別廃棄する。

廃塗料、容器の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する
こと。

14. 輸送上の注意

共通：	<p>取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。</p> <p>容器漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。</p> <p>運搬に際しては、容器を 40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷が無いように注意すること。</p>
陸上輸送：	消防法、労働安全法、毒劇法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。
海上輸送：	船舶安全法に定めるところに従うこと。
航空輸送：	航空法に定めるところに従う。
国連番号：	1950
国連分類：	IMDG コード class2.1

15. 適用法令

労働安全衛生法：	<p>危険物：可燃性ガス</p> <p>名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物：ジメチルエーテル</p>
高圧ガス保安法：	適用除外項目対象：エアゾール
消防法：	非危険物
船舶安全法：	危険物（高圧ガス）
化学物質管理促進法（PRTR）：	<p>第一種指定化学物質（テトラデセンシルホン酸ナトリウム）</p>
危険物船舶運送及び貯蔵規則：	IMDG コード class2.1（UN.No.1950）

16. その他の情報

参考文献：	<p>（社）日本塗料工業会編 「モデルSDS事例集」</p> <p>（社）日本塗料工業会編 「原材料物質データベース」</p> <p>溶剤ポケットブック</p> <p>危険防災救急便覧</p> <p>国際化学物質安全カード（ICSC）</p> <p>NITE-CHIRP</p>
その他：	<p>本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改訂されることがあります。記載内容は現時点で入手出来た資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては如何なる保証をなすものではありません。全ての化学製品には、未知の危険性や有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。</p> <p>本書には通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは保証出来ません。</p> <p>記載事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全策をご実施の上、取扱い願います。</p>